

札幌市環境プラザ運営協議会 令和3年度第1回実施概要

1 日 時 令和3年6月29日(火) 18:30~19:30

2 会 場 オンライン

3 出席者

- (1) 委 員：伊井委員、阿部委員、東館委員、疋田委員、溝渕委員、森山委員、下川原委員
- (2) 札幌市：環境局環境政策課環境教育担当係長、環境政策課推進係 係員
- (3) 事務局：(公財) さっぽろ青少年女性活動協会 市民活動担当課長、市民参画課係長、主任職、一般職員2名、サポートスタッフ、臨時職員

4 会議次第

(1) 開会

(2) あいさつ 札幌市環境局 環境都市推進部 環境政策課長 東館 雅人 様

(3) 運営協議会について

(4) 委員 自己紹介、近況報告

(5) 議事

- ・ 令和2年度事業報告および令和3年度の進捗報告
- ・ 意見交換

① オンラインを活用したさらなるステップについて(学校との連携を中心に)

② コロナ禍後の展望

(6) あいさつ 札幌エルプラザ公共4施設館長 下川原 清貴

(7) 閉会

5 議事概要

・ 令和2年度事業報告および令和3年度の進捗報告

事務局から令和2年度の報告および令和3年度事業計画の紹介を行った。報告では、事業の進捗状況について写真などを紹介した。

【質疑応答】

Q (委員) 来館者数や事業参加者数以外に、Web ページや YouTube などオンラインのアクセス数の報告はあるか。

A (事務局) オンライン事業参加者としては伝えられる数字はあるが、動画のアクセス数などは報告用の集計はしていない。

Q (委員) 北海学園大学との連携事業について、これは継続的なものになるのか

A (事務局) 今回は、新型コロナウイルスまん延に伴う臨時休館により、複数回実施予定だったプログラムを1回限りにしている。下半期など状況が改善した際に行うことも検討中。

→ (委員) コロナ禍で困りごとがある者同士の連携・協働という点で事業の切り口になると思うので、指定管理計画の中でも協定など、ぜひ継続的なものとして進めてほしい。

→ (別の委員) 今回は学芸員課程の学生に関わる事業とのことだが、環境問題やそれに近い学習・研究をしている学部・学生へのアプローチの方が継続的なものになりやすいのではないか。(意見)

Q (委員) 事業「さっぽろあそエコ団」について、申し込みが好評とのことだが、回数や受け入れ人数など増やすことは考えているのか。

A (事務局) 新規事業であるため、まずは最初の想定で事業を通して実施し、ノウハウを活かして次年度以降の継続・拡大に力を入れたい。

(意見) プレーパークや森のようちえんを主導する団体などは、新型コロナウイルスの影響を受けて、活動が成り立っていないという現状がある。「さっぽろあそエコ団」などにもつながると思うので、そういった団体との情報交換や支援の取り組みなどでリーダーシップを発揮すれば、今後の活動協力や新しい取り組みの際に活かせるのではないか。

(意見) 学校の現場でも「体験」を求める声が多いので、今回の活動のノウハウが学校との連携にも活きる機会は大いにあるのではないか。特に「さっぽろあそエコ団」は複数回の活動で、継続的に同じ子に対し深く関わることが出来るのは、環境教育としてとても望ましい。

→ (事務局) 継続的な活動としては、札幌市環境教育・環境学習推進委員会でも指摘を受けているので、指導者向け研修について、複数年で学びを深める事業として実施できないかを検討中。

・環境プラザについての意見交換

事務局から意見交換で求めたいものとして、前回に引き続きコロナ禍下におけるオンラインの活用について、GIGA スクール構想によりタブレットなどの導入が始まった公立学校との連携の話題を中心としたご意見やアイデアや、コロナ後の展望についても、収束を見据えて現段階から意見をいただきたいことを説明した。

●市内小学校との連携について

(意見) 市内小学生の授業にタブレットが使われているが、オンラインコンテンツを活用するためには、どの教科のどの部分の学習に結び付きオンラインでもどういった体験になるかがはっきりしたパッケージになると、教師からしても選択肢が広がるので非常に可能性があるように感じる。

→ タブレットの持ち帰りが行われているのであれば、家で見てほしい、触れてほしいコンテンツなどもあるとなおよい。

→ (別の意見) 環境教育をはじめとした「SDGs」に関わる学びが必要なことは新しい学習指導要領にも盛り込まれているが、まだどの教科のどの部分でその学習を実施していくかが定まっていない時期だと感じている。オンラインコンテンツだけでなく、やはりワークシートなど、今までの学習の形に無理なく組み込みやすいものがあると学校の反応も良いので、そういったものと連携する形でオンラインコンテンツがあるとよいのではないか。

Q (委員) 教育委員会では、上記の話に関わる学習教材の開発などは行われているのか。

A (別の委員) 現状は教職員が現場でタブレットなどを試用している段階で、教材開発までは話は進んでいない。

→ 今後話が動いていくときに、環境プラザが積極的に関わり、教材開発に携わることができればいいように思う。